

令和3年度 江戸川篠崎第四小学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考え、つくり出す子 ～思考力・判断力・創造力をたかめ、主体的に活動できる子供～ みんなとともにのびる子 ～豊かな情操を養い、思いやりの心でなかよしの和を広げる子供～ たくましく生きる子 ～健康・安全に努め、健全な心で最後までやり抜く子供～ 	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>「豊かな学びと人と人とのふれあいのある学校」 常に、子供の立場に立った教育活動や施設設備のあり方を考える。 教職員や友達と学び合い、高め合うことが楽しいと思える学校をめざす。 様々な学習や体験活動を通して人とふれあう中で、子供たちの成長を促す。</p>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>〈成果〉・GIGAスクール構想に向けて、研修会を実施し、タブレットの導入を生かし、オンラインの活用ができた。 ・校内研究を全学級・専科が行い、学習指導力の向上を図ることができた。 〈課題〉・iPadを使った授業の工夫や家庭学習のあり方を考える必要がある。 ・コロナ禍の状況でもできる学校行事等の見直しが必要である。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・情報交換を行い、中一ギャップが起らないようにする。、	・連絡協議会を年に2回以上行う。	B	B	・電話やメールで情報交換を行えた。また、今後も立てていく。	B	・入学後のスタートがより良いものとなるように今後も地域の中学校と連携を続けてほしい。	・コロナ禍においても何らかの形で連携を図っていく。
教員の資質向上	教員研修の充実	・校内研究の実施による教員の授業力の向上	・主幹教諭・主任教諭が講師となったOJT講話・演習を行う。 ・指導と評価が一体化している授業づくりを行う。	・OJT講話・演習を年10回行う。 ・授業観察を年3回行う。	A	A	・学年会等でICTを活用した授業を行えるよう教材研究を深めた。 ・授業観察を年3回行えた。また、授業後は事後指導をし、授業の振り返りを行うことで日々の授業に生かすことができた。 ・校内研でも全員授業を行い、説明文についての系統性や有効な手立てについて深めることができた。	B	・楽しく授業に取り組むことで児童の学力向上を期待したい。	・次年度も年3回の授業観察を行う。 ・校内研究では専科部会を立ち上げ、専科も研究のテーマに沿って授業を行う。 ・主幹教諭、主任教諭を中心としたOJT講話を意図的、計画的に行う。
	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図るなどによる指導・支援の充実	・日頃より情報を発信し、効果的な指導方法を共有する。	・指導について記録をとり、毎回、回覧をする。 ・年3回校内委員会を設ける。	A	A	・記録を活用し、情報共有を行ったり、指導方法について話し合ったりした。 ・校内委員会を2カ月に1度は行なった。 ・SCや巡回指導教員、心理士等を活用して有効な手立てを話し合うことができた。	B	・今後も配慮の必要な児童にきめ細かく指導をしてもらいたい。	・さらに個に応じた指導ができるよう、研修会を行ったり、情報共有できる場を設けたりする。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・児童の実態に合った授業を行う。 ・外部指導員の補習のあり方の見直しを図る。	・校内研究として全教員が授業公開を行う。 ・外部指導員を活用し、1学年に対し年35時間の補習教室を行う。	B	B	・全国学習学力状況調査では全国の平均を上回った。また、全学年行った学力調査でも、すべての学年が平均点より上回ることができた。	B	・オンライン学習を行うなど指導の工夫が見られた。	・ICTを効果的に生かした指導ができるよう考えていく。
	読書科の更なる充実	・学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学習の充実 ・学校図書館を使った授業の充実	・学年に応じた読書科における探究的な授業展開を行う。	・学校のことに関するアンケート(自校作成)において読書が好きと答える児童を90%とする。 ・探究的な授業展開を年3回計画する。	A	B	・教室に本をおいたり、地域の図書館から本を借りたりして、いつでも資料活用ができるよう環境を整えた。本を活用した探究的な学習が日常的にできた。	B	・本を読む時間を意図的につくり、読む習慣を身に付けてほしい。	・司書を活用して、図書センターの環境を整える。地域の図書館も活用し、さらに教室の本も充実させる。 ・児童が探究的な学習に取り組めるよう意図的に計画する。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・掲示物など環境を整えることで、授業や休み時間に運動することを楽しみ、できたという経験をもたせる。	・主運動につながる補助運動を入れた授業や掲示物の工夫をし、授業観察を年に1回行う。	B	B	・長縄週間や持久走週間などを取り入れ、運動意欲の向上が見られた。 ・児童の実態に応じた授業を行うことができた。	B	・体を動かす楽しさを今後も味わわせてほしい。	・研修等を通してどの領域でも行えるよう、今後も継続する必要がある。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・レガシーやスポーツに興味をもてるよう生活や総合の年間指導計画に位置付ける。	・学校のことに関するアンケート(自校作成)においてオリンピック・パラリンピックに関して興味関心のある児童を90%とする。	B	B	・ポッチャを経験したり、掲示物などの環境を整えたりすることができた。	B	・東京オリンピック・パラリンピックを生かし、今後も継続して意識の向上を図ってほしい。	・学校2020レガシーとSDGsを関連付けた教育活動を展開する。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・中学年では教科担任制とし、指導の充実を図る。また、授業の工夫について校内で共有する。 ・外国語アドバイザーによる研修を行い、指導力向上を図る。	・学校のことに関するアンケート(自校作成)において外国語の授業が好きと答える児童を90%とする。 ・外国語アドバイザーによる授業観察や協議会、講演を年3回行う。	B	B	・5年6年はALTと打ち合わせを行うことで授業を工夫できた。 ・3年4年は専任教諭が行うことで、どのクラスも外国語活動を無理なくすすめることができた。	B	・楽しく外国語に親しみながら、学習内容を身に付けてほしい。	・5年6年の外国語の授業については交換授業を行い、さらに専門性を高める。 ・3年4年で行っている専任教諭を引き続き実施し、充実を図る。 ・日常的に外国語に触れる機会を設ける。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・全学年、アンケート・全員面接を実施する。 ・必要に応じて、ケース会議を設ける。	・アンケート・面接は100%実施する。 ・毎月いじめ防止対策委員会を行う。	A	A	・アンケート、面接については100%行うことができた。 ・いじめ防止対策委員会を月に1回行い、情報共有を図ることができた。 ・必要に応じて管理職も面接を行い、児童の実態を把握することができた。	B	・今後も児童の不安を解消できるための指導を続けてほしい。	・次年度もアンケート、面接を行い、児童理解に努める。 ・各関係諸機関との連携強化を今後も図っていく。